



「院内患者会世話人連絡協議会」

Hospital Based Patient Advocacy Council

院内患者会世話人連絡協議会 そこにあるものは、

世話人の情報交換、交流の場

世話人のねぎらいをする場

世話人に癒しを提供する場

連絡先：soudan@medicina-nova.com

2018. 9. 1

院内患者会世話人連絡協議会

各患者会世話人 各位

院内患者会世話人連絡協議会

会長 新井辰雄

第24回院内患者会世話人連絡協議会のご案内

拝啓 酷暑の記録更新を為すがままに、また豪雨の欲するがままに打ち過ごしてきたこの夏も、暦の上では終焉の節目です。皆様には、恙無く実りの季節の秋をお迎えになられたことと存じます。

第三次がん対策推進基本計画の盛られている三施策の一つに「がんと共生」がありますが、医療技術の進歩の中での満たされぬ飢餓感覚やがんサロンなどの相談支援体制の数字上の充足の裏に、実態の格差感などが見られる現実があります。

病を同じくする仲間への支援を志されている皆さまへも、がん診療連携拠点病院に設置されている「がん患者サロン」などが、ピアサポート支援の一環として共生の手を差し伸べてくれるのが、普通の日々となることを祈願しています。

さて、「院内患者会世話人連絡協議会 HosPAC」第24回定例総会を、来る10月13日（土）に、下記の要綱にて開催致したくご案内申し上げます。

今回は、精神科医として異色な経歴を生かされて多面的なご活躍をされておられる杉原正子さまにご講演をお願い致しました。患者として、患者の家族として、そして患者を支援するサポーターとして、目に見える医療上の技術的な情報や社会支援制度以上に直面している悩みは、患者の持つ心の闇ではないでしょうか。皆様の率直な問いかけにも、忌憚ないご助言が頂けると思います。

休憩を挟み後半は、皆さまの日頃色々腐心されていること・悩まれている問題など心置きなく話し合うフリートーキングといたします。なお、語りつくせぬ事柄につきましては、閉会後の懇親会も用意いたします。

ご多用な時節とは存じますが、何卒皆さま方の多くのご参加が頂けます様、心よりお待ち申し上げます。

敬具

第24回 院内患者会世話人連絡協議会 総会 議事次第

- 開催日時 2018年10月13日（土曜日） 13時—17時
- 場 所 東京大学医学部附属病院 入院棟A 1階レセプションルーム
- 議事次第
 - 13:00 1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 新井さん
 - 13:05 2. **【講演】「さりげなく支えるために～患者会活動と精神科医療の比較論～」**
・・・・・・・・・・ 杉原 正子さん
 - 14:00 3. 各患者会の近況紹介と杉原さんを囲む交流
 - 休憩 —
 - 15:00 4. フリートーキング・・・・・・・・・・（司会）佐藤さん
 - 16:55 5. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・ 藤本さん

- 付記： 1. 杉原正子さんのプロフィールとメッセージは、最終ページをご覧ください。
2. 各患者会の近況報告は、各会にお任せいたしますので、内容もご自由にお決め下さい。そして、必要な配布資料などもお持ちいただければ幸いです。
-

【追伸】 総会での諸準備の都合がございますので、誠に恐れ入りますが総会へのご出席の有無を、下記様式で事務局宛にメールにてご連絡頂ければ幸いです。

件名：HosPAC 第24回総会の出欠ご回答

宛先：HosPAC 事務局行き

h.fujimoto.signe@gmail.com ; mina3yasu3@tbz.t-com.ne.jp

院内患者会名：

ご出欠： ご出席 ご欠席

参加者ご氏名： 1.
 2.
 3.

ご回答は、出来ましたら **9月30日**までに頂ければ幸いです。

.....

東大病院 A 棟 フロアーマップ （待合せ場所・総合案内所前）





杉原正子さまからのコメントとプロフィール

<コメント>

生まれる前から母が僧帽弁閉鎖不全（弁膜症）だったことなどから、医学部に入学する前から、当事者視点や患者会活動に興味を抱いておりました。また、ご存知のように、コンサルテーション・リエゾン精神医学、つまり、悪性疾患などの身体疾患の患者さんの心の診療も、私たち精神科医の仕事です。さらに、まったく別の業界から医療界に転じた「回り道医師」である私は、医師になって何年たっても、医療界の「アウトサイダー」であり、また、その視点を持ち続けていたいとも思っております。

このような意味で、皆様の活動と私の立場とは、意外に関連があるかもしれません。当日は、皆様と対話できるのを楽しみにしております。

<プロフィール>

早稲田大学教育学部数学科卒業。

日本アイ・ビー・エム(株)にてシステムズエンジニア（SE）として5年半勤務した後、文学の大学教員を目指して退職。普連土学園高等学校に非常勤講師（国語科）として勤務しながら、早稲田大学大学院教育学研究科国語教育修士課程修了。米国ハーバード大学大学院比較文学科への1年半の留学を経て、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻修士課程修了、同大学院博士課程単位取得退学。

2003年4月、山梨大学医学部に入学し、2010年3月卒業。慶應義塾大学病院初期研修プログラム終了後、2013年4月より、慶應義塾大学医学部精神神経科学教室助教（専修医）。慶應の関連病院である、国立成育医療研究センターこころの診療部、駒木野病院、足利赤十字病院、川崎市立川崎病院、東京海道病院を経て、2015年4月、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科勤務。2017年4月から、独立行政法人国立病院機構東京医療センター精神科に勤務している。（慶應義塾大学医学部精神神経科学教室助教も兼任）